

○水戸市 **個人情報** 保護条例平成16年12月22日
水戸市条例第44号水戸市 **個人情報** 保護条例(平成元年水戸市条例第35号)の全部を改正する。

目次

- 第1章 総則(第1条・第2条)
- 第2章 実施機関における **個人情報** の取扱い(第3条—第9条)
- 第3章 **個人情報** ファイル(第10条・第11条)
- 第4章 開示、訂正及び利用停止
 - 第1節 開示(第12条—第24条)
 - 第2節 訂正(第25条—第31条)
 - 第3節 利用停止(第32条—第37条)
 - 第4節 不服申立て等(第38条—第41条)
- 第5章 **個人情報** 保護運営審議会(第42条—第46条)
- 第6章 雑則(第47条—第53条)
- 第7章 罰則(第54条—第57条)

付則

第1章 総則

(目的)

第1条 この条例は、実施機関において **個人情報** の利用が拡大していることにかんがみ、実施機関における **個人情報** の取扱いに関する基本的事項を定めることにより、行政の適正かつ円滑な運営を図りつつ、個人の権利利益を保護することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において「実施機関」とは、市長、教育委員会、選挙管理委員会、公平委員会、監査委員、農業委員会、固定資産評価審査委員会、消防長及び公営企業管理者並びに議会をいう。

- 2 この条例において「**個人情報**」とは、個人に関する情報であつて、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるもの(他の情報と照合することができ、それにより特定の個人を識別することができることとなるものを含む。)をいう。
- 3 この条例において「保有 **個人情報**」とは、実施機関の職員が職務上作成し、又は取得した **個人情報** であつて、当該実施機関の職員が組織的に利用するものとして、当該実施機関が保有しているものをいう。ただし、行政文書(水戸市情報公開条例(平成13年水戸市条例第4号)第2条第2項に規定する行政文書又は水戸市議会情報公開条例(平成13年水戸市条例第1号)第2条に規定する行政文書をいう。以下同じ。)に記録されているものに限る。
- 4 この条例において「条例等」とは、条例(茨城県知事の権限に属する事務の処理の特例に関する条例(平成11年茨城県条例第44号)及び茨城県教育委員会の権限に属する事務の処理の特例に関する条例(平成11年茨城県条例第73号)(以下「特例条例」という。))により市が処理することとされた事務について規定する茨城県の条例を含む。)、執行機関の規則(特例条例により市が処理することとされた事務について規定する茨城県の執行機関の規則を含む。))及び規程、公営企業管理者の定める企業管理規程並びに議会の規則及び規程をいう。
- 5 この条例において「**個人情報** ファイル」とは、保有 **個人情報** を含む情報の集合物であつて、次の各号に掲げるものをいう。
 - (1) 一定の事務の目的を達成するために特定の保有 **個人情報** を電子計算機を用いて検索することができるように体系的に構成したもの
 - (2) 前号に掲げるもののほか、一定の事務の目的を達成するために氏名、生年月日、その他の記述等により特定の保有 **個人情報** を容易に検索することができるように体系的に構成したもの
- 6 この条例において **個人情報** について「本人」とは、 **個人情報** によって識別される特定の個人をいう。

第2章 実施機関における **個人情報** の取扱い(**個人情報** の保有の制限等)

第3条 実施機関は、 **個人情報** を保有するに当たっては、法令又は条例等の定める所掌事務を遂行するため必要な場合に限り、かつ、その利用の目的をできる限り特定しなければならない。

2 実施機関は、前項の規定により特定された利用の目的(以下「利用目的」という。)の達成に必要な範囲を超えて、 **個人情報** を保有してはならない。

3 実施機関は、利用目的を変更する場合には、変更前の利用目的と相当の関連性を有すると合理的に認められる範囲を超えて行ってはならない。

(利用目的の明示)

第4条 実施機関は、本人から直接書面(電子的方式、磁気的方式その他の知覚によっては認識することができない方式で作られる記録(第22条及び第56条において「電磁的記録」とい

う。)を含む。)に記録された当該本人の**個人情報**を取得するときは、次の各号に掲げる場合を除き、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示しなければならない。

- (1) 人の生命、身体又は財産の保護のために緊急に必要があるとき。
- (2) 利用目的を本人に明示することにより、本人又は第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがあるとき。
- (3) 利用目的を本人に明示することにより、市の機関、国、独立行政法人等(独立行政法人等の保有する**個人情報**の保護に関する法律(平成15年法律第59号)第2条第1項に規定する独立行政法人等をいう。以下同じ。)、他の地方公共団体又は地方独立行政法人(地方独立行政法人法(平成15年法律第118号)第2条第1項に規定する地方独立行政法人をいう。以下同じ。))が行う事務又は事業の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがあるとき。
- (4) 取得の状況からみて利用目的が明らかであると認められるとき。

(平19条例15・一部改正)

(正確性の確保)

第5条 実施機関は、利用目的の達成に必要な範囲内で、保有**個人情報**が過去又は現在の事実と合致するよう努めなければならない。

(安全確保の措置)

第6条 実施機関は、保有**個人情報**の漏えい、滅失又はき損の防止その他の保有**個人情報**の適切な管理のために必要な措置を講じなければならない。

2 前項の規定は、実施機関から**個人情報**の取扱いの委託を受けた者が受託した業務を行う場合及び指定管理者(地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項に規定する指定管理者をいう。以下同じ。))が同項の規定により公の施設の管理の業務を行う場合について準用する。

(平17条例2・一部改正)

(従事者の義務)

第7条 **個人情報**の取扱いに従事する実施機関の職員若しくは職員であった者又は前条第2項の受託業務若しくは公の施設の管理の業務に従事している者若しくは従事していた者は、その業務に関して知り得た**個人情報**の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならない。

(平17条例2・一部改正)

(利用及び提供の制限)

第8条 実施機関は、法令又は条例等に基づく場合を除き、利用目的以外の目的のために保有**個人情報**を自ら利用し、又は提供してはならない。

2 前項の規定にかかわらず、実施機関は、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、利用目的以外の目的のために保有**個人情報**を自ら利用し、又は提供することができる。ただし、保有**個人情報**を利用目的以外の目的のために自ら利用し、又は提供することによって、本人又は第三者の権利利益を不当に侵害するおそれがあると認められるときは、この限りでない。

- (1) 本人の同意があるとき、又は本人に提供するとき。
- (2) 実施機関が法令又は条例等の定める所掌事務の遂行に必要な限度で保有**個人情報**を内部で利用する場合であって、当該保有**個人情報**を利用することについて相当な理由のあるとき。
- (3) 他の実施機関、国、独立行政法人等、他の地方公共団体又は地方独立行政法人に保有**個人情報**を提供する場合において、保有**個人情報**の提供を受ける者が、法令の定める事務又は業務の遂行に必要な限度で提供に係る**個人情報**を利用し、かつ、当該**個人情報**を利用することについて相当な理由のあるとき。
- (4) 前3号に掲げる場合のほか、専ら統計の作成又は学術研究の目的のために保有**個人情報**を提供するとき、本人以外の者に提供することが明らかに本人の利益になるときその他保有**個人情報**を提供することについて特別な理由のあるとき。

3 前項の規定は、保有**個人情報**の利用又は提供を制限する法令又は条例等の規定の適用を妨げるものではない。

4 実施機関は、個人の権利利益を保護するため特に必要があると認めるときは、保有**個人情報**の利用目的以外の目的のための実施機関の内部における利用を特定の部署又は機関に限るものとする。

(保有**個人情報**の提供を受ける者に対する措置要求)

第9条 実施機関は、前条第2項第3号又は第4号の規定により保有**個人情報**を提供する場合において、必要があると認めるときは、保有**個人情報**の提供を受ける者に対し、提供に係る**個人情報**について、その利用の目的若しくは方法の制限その他必要な制限を付し、又はその漏えいの防止その他の**個人情報**の適切な管理のために必要な措置を講ずることを求めるものとする。

第3章 **個人情報**ファイル

(**個人情報**ファイルの保有等に関する事前通知)

第10条 実施機関は、**個人情報**ファイルを保有しようとするときは、あらかじめ、市長に対

し、次の各号に掲げる事項を通知しなければならない。通知した事項を変更しようとするときも、同様とする。

- (1) **個人情報**ファイルの名称
 - (2) 当該実施機関の名称及び**個人情報**ファイルが利用に供される事務をつかさどる組織の名称
 - (3) **個人情報**ファイルの利用目的
 - (4) **個人情報**ファイルに記録される項目(以下この章において「記録項目」という。)及び本人(他の個人の氏名、生年月日その他の記述等によらないで検索し得る者に限る。次項第9号において同じ。)として**個人情報**ファイルに記録される個人の範囲(以下この章において「記録範囲」という。)
 - (5) **個人情報**ファイルに記録される**個人情報**(以下この章において「記録情報」という。)の収集方法
 - (6) 記録情報を当該実施機関以外の者に経常的に提供する場合には、その提供先
 - (7) 次条第3項の規定により、記録項目の一部若しくは第5号若しくは前号に掲げる事項を**個人情報**ファイル簿に記載しないこととするとき、又は**個人情報**ファイルを**個人情報**ファイル簿に掲載しないこととするときは、その旨
 - (8) 第25条第1項ただし書又は第32条第1項ただし書に該当するときは、その旨
 - (9) その他実施機関が定める事項
- 2 前項の規定は、次の各号に掲げる**個人情報**ファイルについては、適用しない。
- (1) 市の安全その他の市の重大な利益に関する事項を記録する**個人情報**ファイル
 - (2) 犯罪の捜査、租税に関する法律の規定に基づく犯則事件の調査又は公訴の提起若しくは維持のために作成し、又は取得する**個人情報**ファイル
 - (3) 実施機関の職員又は職員であった者に係る**個人情報**ファイルであって、専らその人事、給与若しくは福利厚生に関する事項又はこれらに準ずる事項を記録するもの(実施機関が行う職員の採用試験に関する**個人情報**ファイルを含む。)
 - (4) 専ら試験的な電子計算機処理の用に供するための**個人情報**ファイル
 - (5) 前項の規定による通知に係る**個人情報**ファイルに記録されている記録情報の全部又は一部を記録した**個人情報**ファイルであって、その利用目的、記録項目及び記録範囲が当該通知に係るこれらの事項の範囲内のもの
 - (6) 1年以内に消去することとなる記録情報のみを記録する**個人情報**ファイル
 - (7) 資料その他の物品若しくは金銭の送付又は業務上必要な連絡のために利用する記録情報を記録した**個人情報**ファイルであって、送付又は連絡の相手方の氏名、住所その他の送付又は連絡に必要な事項のみを記録するもの
 - (8) 職員が学術研究の用に供するためその発意に基づき作成し、又は取得する**個人情報**ファイルであって、記録情報を専ら当該学術研究の目的のために利用するもの
 - (9) 本人の数が実施機関が定める数に満たない**個人情報**ファイル
 - (10) 第3号から前号までに掲げる**個人情報**ファイルに準ずるものとして実施機関が定める**個人情報**ファイル
- 3 実施機関は、第1項に規定する事項を通知した**個人情報**ファイルの保有をやめたとき、又はその**個人情報**ファイルが前項第9号に該当するに至ったときは、遅滞なく、市長に対しその旨を通知しなければならない。

(**個人情報**ファイル簿の作成及び公表)

第11条 実施機関は、当該実施機関の定めるところにより、当該実施機関が保有している**個人情報**ファイルについて、それぞれ前条第1項第1号から第6号まで及び第8号に掲げる事項その他実施機関が定める事項を記載した帳簿(第3項において「**個人情報**ファイル簿」という。)を作成し、公表しなければならない。

- 2 前項の規定は、次の各号に掲げる**個人情報**ファイルについては、適用しない。
- (1) 前条第2項各号に掲げる**個人情報**ファイル
 - (2) 前項の規定による公表に係る**個人情報**ファイルに記録されている記録情報の全部又は一部を記録した**個人情報**ファイルであって、その利用目的、記録項目及び記録範囲が当該公表に係るこれらの事項の範囲内のもの
 - (3) 前号に掲げる**個人情報**ファイルに準ずるものとして実施機関が定める**個人情報**ファイル
- 3 第1項の規定にかかわらず、実施機関は、記録項目の一部若しくは前条第1項第5号若しくは第6号に掲げる事項を**個人情報**ファイル簿に記載し、又は**個人情報**ファイルを**個人情報**ファイル簿に掲載することにより、利用目的に係る事務の性質上、当該事務の適正な遂行に著しい支障を及ぼすおそれがあると認めるときは、その記録項目の一部若しくは事項を記載せず、又はその**個人情報**ファイルを**個人情報**ファイル簿に掲載しないことができる。

第4章 開示、訂正及び利用停止

第1節 開示

(開示請求権)

第12条 何人も、この条例の定めるところにより、実施機関に対し、当該実施機関の保有する

自己を本人とする保有 **個人情報** の開示を請求することができる。

- 2 保有 **個人情報** が死者に係るものである場合において、当該保有 **個人情報** が相続財産に関する情報その他の実施機関が定める情報に該当するものであると認めるときは、当該保有 **個人情報** を、実施機関が定める者を本人とする保有 **個人情報** とみなし、前項の規定を適用する。
- 3 未成年者又は成年被後見人の法定代理人は、本人に代わって前2項の規定による開示の請求（以下「開示請求」という。）をすることができる。

（開示請求の手續）

第13条 開示請求は、次の各号に掲げる事項を記載した書面（以下「開示請求書」という。）を実施機関に提出してしなければならない。

- (1) 開示請求をする者の氏名及び住所又は居所
 - (2) 開示請求に係る保有 **個人情報** が記録されている行政文書の名称その他の開示請求に係る保有 **個人情報** を特定するに足りる事項
 - (3) その他実施機関が定める事項
- 2 前項の場合において、開示請求をする者は、実施機関の定めるところにより、開示請求に係る保有 **個人情報** の本人であること（前条第2項の規定による開示請求にあつては実施機関が定める者であること、前条第3項の規定による開示請求にあつては開示請求に係る保有 **個人情報** の本人の法定代理人であること）を示す書類を提示し、又は提出しなければならない。
- 3 実施機関は、開示請求書に形式上の不備があると認めるときは、開示請求をした者（以下「開示請求者」という。）に対し、相当の期間を定めて、その補正を求めることができる。この場合において、実施機関は、開示請求者に対し、補正の参考となる情報を提供するよう努めなければならない。

（保有 **個人情報** の開示義務）

第14条 実施機関は、開示請求があつたときは、開示請求に係る保有 **個人情報** に次の各号に掲げる情報（以下「不開示情報」という。）のいずれかが含まれている場合を除き、開示請求者に対し、当該保有 **個人情報** を開示しなければならない。

- (1) 開示請求者（第12条第3項の規定により未成年者又は成年被後見人の法定代理人が本人に代わって開示請求をする場合にあつては、当該本人をいう。次号及び第3号、次条第2項並びに第21条第1項において同じ。）の生命、健康、生活又は財産を害するおそれがある情報
- (2) 開示請求者以外の個人に関する情報（事業を営む個人の当該事業に関する情報を除く。）であつて、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により開示請求者以外の特定の個人を識別することができるもの（他の情報と照合することにより、開示請求者以外の特定の個人を識別することができることとなるものを含む。）又は開示請求者以外の特定の個人を識別することはできないが、開示することにより、なお開示請求者以外の個人の権利利益を害するおそれがあるもの。ただし、次に掲げる情報を除く。
 - ア 法令若しくは条例等の規定により又は慣行として開示請求者が知ることができ、又は知ることが予定されている情報
 - イ 人の生命、健康、生活又は財産を保護するため、開示することが必要であると認められる情報
 - ウ 当該個人が公務員等（国家公務員法（昭和22年法律第120号）第2条第1項に規定する国家公務員（独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第2条第2項に規定する特定独立行政法人の役員及び職員を除く。）、独立行政法人等の役員及び職員、地方公務員法（昭和25年法律第261号）第2条に規定する地方公務員並びに地方独立行政法人の役員及び職員をいう。）である場合において、当該情報がその職務の遂行に係る情報であるときは、当該情報のうち、当該公務員等の職、氏名及び当該職務遂行の内容に係る部分。ただし、当該公務員等の氏名に係る情報を公にすることにより当該個人の権利利益を不当に害するおそれがある場合は、当該公務員等の氏名に係る部分を除く。
- (3) 法人その他の団体（市、国、独立行政法人等、他の地方公共団体及び地方独立行政法人を除く。以下この号において「法人等」という。）に関する情報又は開示請求者以外の事業を営む個人の当該事業に関する情報であつて、次に掲げるもの。ただし、人の生命、健康、生活又は財産を保護するため、開示することが必要であると認められる情報を除く。
 - ア 開示することにより、当該法人等又は当該個人の権利、競争上の地位その他正当な利益を害するおそれがあるもの
 - イ 実施機関の要請を受けて、開示しないとの条件で任意に提供されたものであつて、法人等又は個人における通例として開示しないこととされているものその他の当該条件を付することが当該情報の性質、当時の状況等に照らして合理的であると認められるもの
- (4) 行政上の義務に違反する行為の取締り又は犯罪の捜査に関する情報であつて、開示することにより、その遂行に支障を生ずるおそれがあるもの
- (5) 市の機関、国、独立行政法人等、他の地方公共団体及び地方独立行政法人の内部又は相互間における審議、検討又は協議に関する情報であつて、開示することにより、率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれ、不当に市民の間に混乱を生じさせるおそれ又は特定の者に不当に利益を与え若しくは不利益を及ぼすおそれがある

るもの

- (6) 市の機関、国、独立行政法人等、他の地方公共団体又は地方独立行政法人が行う事務又は事業に関する情報であつて、開示することにより、次に掲げるおそれその他当該事務又は事業の性質上、当該事務又は事業の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがあるもの
- ア 監査、検査、取締り、試験又は租税の賦課若しくは徴収に係る事務に関し、正確な事実の把握を困難にするおそれ又は違法若しくは不当な行為を容易にし、若しくはその発見を困難にするおそれ
- イ 契約、交渉又は争訟に係る事務に関し、市、国、独立行政法人等、他の地方公共団体又は地方独立行政法人の財産上の利益又は当事者としての地位を不当に害するおそれ
- ウ 調査研究に係る事務に関し、その公正かつ能率的な遂行を不当に阻害するおそれ
- エ 人事管理に係る事務に関し、公正かつ円滑な人事の確保に支障を及ぼすおそれ
- オ 市若しくは他の地方公共団体が経営する企業、独立行政法人等又は地方独立行政法人に係る事業に関し、その企業経営上の正当な利益を害するおそれ
- (平19条例15・平19条例40・平25条例14・一部改正)

(部分開示)

第15条 実施機関は、開示請求に係る保有個人情報に不開示情報が含まれている場合において、不開示情報に該当する部分を容易に区分して除くことができるときは、開示請求者に対し、当該部分を除いた部分につき開示しなければならない。

2 開示請求に係る保有個人情報に前条第2号の情報(開示請求者以外の特定の個人を識別することができるものに限る。)が含まれている場合において、当該情報のうち、氏名、生年月日その他の開示請求者以外の特定の個人を識別することができることとなる記述等の部分を除くことにより、開示しても、開示請求者以外の個人の権利利益が害されるおそれがないと認められるときは、当該部分を除いた部分は、同号の情報に含まれないものとみなして、前項の規定を適用する。

(裁量的開示)

第16条 実施機関は、開示請求に係る保有個人情報に不開示情報が含まれている場合であっても、個人の権利利益を保護するため特に必要があると認めるときは、開示請求者に対し、当該保有個人情報を開示することができる。

(保有個人情報の存否に関する情報)

第17条 開示請求に対し、当該開示請求に係る保有個人情報が存在しているか否かを答えるだけで、不開示情報を開示することとなるときは、実施機関は、当該保有個人情報の存否を明らかにしないで、当該開示請求を拒否することができる。

(開示請求に対する措置)

第18条 実施機関は、開示請求に係る保有個人情報の全部又は一部を開示するときは、その旨の決定をし、開示請求者に対し、その旨、開示する保有個人情報の利用目的及び開示の実施について実施機関が定める事項を書面により通知しなければならない。ただし、第4条第2号又は第3号に該当する場合における当該利用目的については、この限りでない。

2 実施機関は、開示請求に係る保有個人情報の全部を開示しないとき(前条の規定により開示請求を拒否するとき、及び開示請求に係る保有個人情報を保有していないときを含む。)は、開示をしない旨の決定をし、開示請求者に対し、その旨を書面により通知しなければならない。

(開示決定等の期限)

第19条 前条各項の決定(以下「開示決定等」という。)は、開示請求があつた日から起算して15日以内にしなければならない。ただし、第13条第3項の規定により補正を求めた場合にあつては、当該補正に要した日数は、当該期間に算入しない。

2 前項の規定にかかわらず、実施機関は、事務処理上の困難その他正当な理由があるときは、同項に規定する期間を45日以内に限り延長することができる。この場合において、実施機関は、開示請求者に対し、遅滞なく、延長後の期間及び延長の理由を書面により通知しなければならない。

(開示決定等の期限の特例)

第20条 開示請求に係る保有個人情報が著しく大量であるため、開示請求があつた日から起算して60日以内にそのすべてについて開示決定等を行うことにより事務の遂行に著しい支障が生ずるおそれがある場合には、前条の規定にかかわらず、実施機関は、開示請求に係る保有個人情報のうちの相当の部分につき当該期間内に開示決定等をし、残りの保有個人情報については相当の期間内に開示決定等をするれば足りる。この場合において、実施機関は、同条第1項に規定する期間内に、開示請求者に対し、次の各号に掲げる事項を書面により通知しなければならない。

(1) この条の規定を適用する旨及びその理由

(2) 残りの保有個人情報について開示決定等をする期限

(第三者に対する意見書提出の機会の付与等)

第21条 開示請求に係る保有個人情報に市、国、独立行政法人等、他の地方公共団体、地方独立行政法人及び開示請求者以外の者(以下この条、第39条及び第41条において「第三者」と

いう。)に関する情報が含まれているときは、実施機関は、開示決定等をするに当たって、当該情報に係る第三者に対し、実施機関の定めるところにより、当該第三者に関する情報の内容その他実施機関が定める事項を通知して、意見書を提出する機会を与えることができる。

2 実施機関は、次の各号のいずれかに該当するときは、第18条第1項の決定(以下「開示決定」という。)に先立ち、当該第三者に対し、実施機関の定めるところにより、開示請求に係る当該第三者に関する情報の内容その他実施機関が定める事項を書面により通知して、意見書を提出する機会を与えなければならない。ただし、当該第三者の所在が判明しないときは、この限りでない。

(1) 第三者に関する情報が含まれている保有個人情報を開示しようとする場合であって、当該第三者に関する情報が第14条第2号イ又は同条第3号ただし書に規定する情報に該当すると認められるとき。

(2) 第三者に関する情報が含まれている保有個人情報を第16条の規定により開示しようとするとき。

3 実施機関は、前2項の規定により意見書の提出の機会を与えられた第三者が当該第三者に関する情報の開示に反対の意思を表示した意見書を提出した場合において、開示決定をするときは、開示決定の日と開示を実施する日との間に少なくとも2週間を置かなければならない。この場合において、実施機関は、開示決定後直ちに、当該意見書(第38条及び第39条において「反対意見書」という。)を提出した第三者に対し、開示決定をした旨及びその理由並びに開示を実施する日を書面により通知しなければならない。

(開示の実施)

第22条 保有個人情報の開示は、当該保有個人情報が、文書又は図画に記録されているときは閲覧又は写しの交付により、電磁的記録に記録されているときはその種別、情報化の進展状況等を勘案して実施機関が定める方法により行う。ただし、閲覧の方法による保有個人情報の開示にあつては、実施機関は、当該保有個人情報が記録されている文書又は図画の保存に支障を生ずるおそれがあると認めるとき、その他正当な理由があるときは、その写しにより、これを行うことができる。

(法令又は他の条例等による開示の実施との調整)

第23条 実施機関は、法令又は他の条例等の規定により、開示請求者に対し開示請求に係る保有個人情報が前条本文に規定する方法と同一の方法で開示することとされている場合(開示の期間が定められている場合にあつては、当該期間内に限る。)には、同条本文の規定にかかわらず、当該保有個人情報については、当該同一の方法による開示を行わない。ただし、当該法令又は他の条例等の規定に一定の場合には開示をしない旨の定めがあるときは、この限りでない。

2 法令又は他の条例等の規定に定める開示の方法が縦覧であるときは、当該縦覧を前条本文の閲覧とみなして、前項の規定を適用する。

(費用の負担)

第24条 保有個人情報の開示を受ける者は、実施機関の定めるところにより、当該開示に係る費用として実費の範囲内において実施機関が定める額を負担しなければならない。

第2節 訂正

(訂正請求権)

第25条 何人も、自己を本人とする保有個人情報(次の各号に掲げるものに限る。第32条第1項において同じ。)の内容が事実でないと思料するときは、この条例の定めるところにより、当該保有個人情報を保有する実施機関に対し、当該保有個人情報の訂正(追加又は削除を含む。以下同じ。)を請求することができる。ただし、当該保有個人情報の訂正について法律若しくはこれに基づく命令又は他の条例若しくはこれに基づく実施機関の定めにより特別の手續が定められているときは、この限りでない。

(1) 開示決定に基づき開示を受けた保有個人情報

(2) 開示決定に係る保有個人情報であつて、第23条第1項の法令又は他の条例等の規定により開示を受けたもの

2 未成年者又は成年被後見人の法定代理人は、本人に代わつて前項の規定による訂正の請求(以下「訂正請求」という。)をすることができる。

3 訂正請求は、保有個人情報の開示を受けた日から起算して90日以内にしなければならない。

(訂正請求の手續)

第26条 訂正請求は、次の各号に掲げる事項を記載した書面(以下「訂正請求書」という。)を実施機関に提出してしなければならない。

(1) 訂正請求をする者の氏名及び住所又は居所

(2) 訂正請求に係る保有個人情報の開示を受けた日その他当該保有個人情報を特定するに足りる事項

(3) 訂正請求の趣旨及び理由

2 前項の場合において、訂正請求をする者は、実施機関の定めるところにより、訂正請求に係る保有個人情報の本人であること(前条第2項の規定による訂正請求にあつては、訂正請求

に係る保有 **個人情報** の本人の法定代理人であること)を示す書類を提示し、又は提出しなければならない。

- 3 実施機関は、訂正請求書に形式上の不備があると認めるときは、訂正請求をした者(以下「訂正請求者」という。)に対し、相当の期間を定めて、その補正を求めることができる。
(保有 **個人情報** の訂正義務)

第27条 実施機関は、訂正請求があった場合において、当該訂正請求に理由があると認めるときは、当該訂正請求に係る保有 **個人情報** の利用目的の達成に必要な範囲内で、当該保有 **個人情報** の訂正をしなければならない。

(訂正請求に対する措置)

第28条 実施機関は、訂正請求に係る保有 **個人情報** の訂正をするときは、その旨の決定をし、訂正請求者に対し、その旨を書面により通知しなければならない。

- 2 実施機関は、訂正請求に係る保有 **個人情報** の訂正をしないときは、その旨の決定をし、訂正請求者に対し、その旨を書面により通知しなければならない。

(訂正決定等の期限)

第29条 前条各項の決定(以下「訂正決定等」という。)は、訂正請求があった日から起算して15日以内にしなければならない。ただし、第26条第3項の規定により補正を求めた場合にあつては、当該補正に要した日数は、当該期間に算入しない。

- 2 前項の規定にかかわらず、実施機関は、事務処理上の困難その他正当な理由があるときは、同項に規定する期間を45日以内に限り延長することができる。この場合において、実施機関は、訂正請求者に対し、遅滞なく、延長後の期間及び延長の理由を書面により通知しなければならない。

(訂正決定等の期限の特例)

第30条 実施機関は、訂正決定等に特に長期間を要すると認めるときは、前条の規定にかかわらず、相当の期間内に訂正決定等をすれば足りる。この場合において、実施機関は、同条第1項に規定する期間内に、訂正請求者に対し、次の各号に掲げる事項を書面により通知しなければならない。

- (1) この条の規定を適用する旨及びその理由
- (2) 訂正決定等をする期限

(保有 **個人情報** の提供先への通知)

第31条 実施機関は、第28条第1項の決定に基づく保有 **個人情報** の訂正の実施をした場合において、必要があると認めるときは、当該保有 **個人情報** の提供先に対し、遅滞なく、その旨を書面により通知するものとする。

第3節 利用停止

(利用停止請求権)

第32条 何人も、自己を本人とする保有 **個人情報** が次の各号のいずれかに該当すると思料するときは、この条例の定めるところにより、当該保有 **個人情報** を保有する実施機関に対し、当該各号に定める措置を請求することができる。ただし、当該保有 **個人情報** の利用の停止、消去又は提供の停止(以下「利用停止」という。)について法律若しくはこれに基づく命令又は他の条例若しくはこれに基づく実施機関の定めにより特別の手續が定められているときは、この限りでない。

- (1) 当該保有 **個人情報** を保有する実施機関により適法に取得されたものでないとき、第3条第2項の規定に違反して保有されているとき、又は第8条第1項及び第2項の規定に違反して利用されているとき 当該保有 **個人情報** の利用の停止又は消去

- (2) 第8条第1項及び第2項の規定に違反して提供されているとき 当該保有 **個人情報** の提供の停止

2 未成年者又は成年被後見人の法定代理人は、本人に代わって前項の規定による利用停止の請求(以下「利用停止請求」という。)をすることができる。

3 利用停止請求は、保有 **個人情報** の開示を受けた日から起算して90日以内にしなければならない。

(利用停止請求の手續)

第33条 利用停止請求は、次の各号に掲げる事項を記載した書面(以下「利用停止請求書」という。)を実施機関に提出してしなければならない。

- (1) 利用停止請求をする者の氏名及び住所又は居所
- (2) 利用停止請求に係る保有 **個人情報** の開示を受けた日その他当該保有 **個人情報** を特定するに足りる事項
- (3) 利用停止請求の趣旨及び理由

2 前項の場合において、利用停止請求をする者は、実施機関の定めるところにより、利用停止請求に係る保有 **個人情報** の本人であること(前条第2項の規定による利用停止請求にあつては、利用停止請求に係る保有 **個人情報** の本人の法定代理人であること)を示す書類を提示し、又は提出しなければならない。

3 実施機関は、利用停止請求書に形式上の不備があると認めるときは、利用停止請求をした者(以下「利用停止請求者」という。)に対し、相当の期間を定めて、その補正を求めること

ができる。

(保有個人情報)の利用停止義務)

第34条 実施機関は、利用停止請求があった場合において、当該利用停止請求に理由があると認めるときは、当該実施機関における個人情報)の適正な取扱いを確保するために必要な限度で、当該利用停止請求に係る保有個人情報)の利用停止をしなければならない。ただし、当該保有個人情報)の利用停止をすることにより、当該保有個人情報)の利用目的に係る事務の性質上、当該事務の適正な遂行に著しい支障を及ぼすおそれがあると認められるときは、この限りでない。

(利用停止請求に対する措置)

第35条 実施機関は、利用停止請求に係る保有個人情報)の利用停止をするときは、その旨の決定をし、利用停止請求者に対し、その旨を書面により通知しなければならない。

2 実施機関は、利用停止請求に係る保有個人情報)の利用停止をしないときは、その旨の決定をし、利用停止請求者に対し、その旨を書面により通知しなければならない。

(利用停止決定等の期限)

第36条 前条各項の決定(以下「利用停止決定等」という。)は、利用停止請求があった日から起算して15日以内にしなければならない。ただし、第33条第3項の規定により補正を求めた場合にあっては、当該補正に要した日数は、当該期間に算入しない。

2 前項の規定にかかわらず、実施機関は、事務処理上の困難その他正当な理由があるときは、同項に規定する期間を45日以内に限り延長することができる。この場合において、実施機関は、利用停止請求者に対し、遅滞なく、延長後の期間及び延長の理由を書面により通知しなければならない。

(利用停止決定等の期限の特例)

第37条 実施機関は、利用停止決定等に特に長期間を要すると認めるときは、前条の規定にかかわらず、相当の期間内に利用停止決定等をすれば足りる。この場合において、実施機関は、同条第1項に規定する期間内に、利用停止請求者に対し、次の各号に掲げる事項を書面により通知しなければならない。

(1) この条の規定を適用する旨及びその理由

(2) 利用停止決定等をする期限

第4節 不服申立て等

(審査会への諮問)

第38条 開示決定等、訂正決定等又は利用停止決定等について行政不服審査法(昭和37年法律第160号)による不服申立てがあったときは、当該不服申立てに対する決定又は裁決をすべき実施機関は、次の各号のいずれかに該当する場合を除き、水戸市情報公開・個人情報)保護審査会(以下「審査会」という。)に諮問しなければならない。

(1) 不服申立てが不適法であり、却下するとき。

(2) 決定又は裁決で、不服申立てに係る開示決定等(開示請求に係る保有個人情報)の全部を開示する旨の決定を除く。以下この号及び第41条において同じ。)を取り消し、又は変更し、当該不服申立てに係る保有個人情報)の全部を開示することとするとき。ただし、当該開示決定等について反対意見書が提出されているときを除く。

(3) 決定又は裁決で、不服申立てに係る訂正決定等(訂正請求の全部を容認して訂正をする旨の決定を除く。)を取り消し、又は変更し、当該不服申立てに係る訂正請求の全部を容認して訂正をすることとするとき。

(4) 決定又は裁決で、不服申立てに係る利用停止決定等(利用停止請求の全部を容認して利用停止をする旨の決定を除く。)を取り消し、又は変更し、当該不服申立てに係る利用停止請求の全部を容認して利用停止をすることとするとき。

(諮問をした旨の通知)

第39条 前条の規定により諮問をした実施機関は、次の各号に掲げる者に対し、諮問をした旨を通知しなければならない。

(1) 不服申立人及び参加人

(2) 開示請求者、訂正請求者又は利用停止請求者(これらの者が不服申立人又は参加人である場合を除く。)

(3) 当該不服申立てに係る開示決定等について反対意見書を提出した第三者(当該第三者が不服申立人又は参加人である場合を除く。)

(決定又は裁決)

第40条 実施機関は、審査会の答申があった日から起算して15日以内に不服申立てについての決定又は裁決をしなければならない。

2 前項の規定により決定又は裁決をした実施機関は、当該決定又は裁決について理由を付し、当該不服申立人及び参加人に通知しなければならない。この場合において、当該通知には、審査会の答申書の写しを添付するものとする。

(第三者からの不服申立てを棄却する場合等における手続等)

第41条 第21条第3項の規定は、次の各号のいずれかに該当する決定又は裁決をする場合について準用する。

- (1) 開示決定に対する第三者からの不服申立てを却下し、又は棄却する決定又は裁決
- (2) 不服申立てに係る開示決定等を変更し、当該開示決定等に係る保有個人情報を開示する旨の決定又は裁決(第三者である参加人が当該第三者に関する情報の開示に反対の意思を表示している場合に限る。)

第5章 個人情報保護運営審議会

(設置)

第42条 個人情報保護制度に関する重要な事項について、実施機関の諮問に応じて審議するため、水戸市個人情報保護運営審議会(以下「審議会」という。)を置く。

(組織等)

第43条 審議会は、個人情報保護制度について優れた識見を有する者のうちから、市長が委嘱する7人以内の委員をもって組織する。

- 2 委員の任期は、答申に係る審議が終了するまでとする。
- 3 審議会に、委員の互選により会長及び副会長を置く。
- 4 会長は、審議会の会務を総理する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第44条 審議会は、会長が招集し、会長は、会議の議長となる。

- 2 審議会は、4人以上の委員の出席がなければ開くことができないものとし、審議会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(秘密を守る義務)

第45条 委員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。

(庶務)

第46条 審議会の庶務は、総務部において行う。

第6章 雑則

(適用除外等)

第47条 第4章の規定は、刑事事件若しくは少年の保護事件に係る裁判、検察官、検察事務官若しくは司法警察職員が行う処分、刑若しくは保護処分の執行、更正緊急保護又は恩赦に係る保有個人情報(当該裁判、処分若しくは執行を受けた者、更正緊急保護の申出をした者又は恩赦の上申があった者に係るものに限る。)については、適用しない。

- 2 第4章の規定は、法律の規定により行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律(平成15年法律第58号)第4章の規定が適用されないこととされている保有個人情報については、適用しない。

3 保有個人情報(水戸市情報公開条例第7条に規定する不開示情報又は水戸市議会情報公開条例第7条に規定する不開示情報を専ら記録する行政文書に記録されているものに限る。)のうち、まだ分類その他の整理が行われていないもので、同一の利用目的に係るものが著しく大量にあるためその中から特定の保有個人情報を検索することが著しく困難であるものは、第4章(第4節を除く。)の規定の適用については、実施機関に保有されていないものとみなす。

(平19条例15・一部改正)

(開示請求等をしようとする者に対する情報の提供等)

第48条 実施機関は、開示請求、訂正請求又は利用停止請求(以下この項において「開示請求等」という。)をしようとする者がそれぞれ容易かつ的確に開示請求等を行うことができるよう、当該実施機関が保有する保有個人情報の特定に資する情報の提供その他開示請求等をしようとする者の利便を考慮した適切な措置を講ずるものとする。

(苦情処理)

第49条 実施機関は、実施機関における個人情報の取扱いに関する苦情の適切かつ迅速な処理に努めなければならない。

(施行の状況の公表)

第50条 市長は、実施機関に対し、この条例の施行の状況について報告を求めることができる。

- 2 市長は、毎年度、前項の報告を取りまとめ、その概要を公表するものとする。

(資料の提出及び説明の要求)

第51条 市長は、前条第1項に定めるもののほか、この条例の目的を達成するため必要があると認めるときは、実施機関に対し、実施機関における個人情報の取扱いに関する事務の実施状況について、資料の提出及び説明を求めることができる。

(意見の陳述)

第52条 市長は、この条例の目的を達成するため必要があると認めるときは、実施機関に対し、実施機関における個人情報の取扱いについて意見を述べることができる。

(指定管理者の個人情報保護)

第52条の2 指定管理者は、この条例に準じ、その管理する公の施設の管理の業務に関し保有する個人情報の適正な取扱いを確保するために必要な規程を整備し、これを実施しなければ

ならない。

- 2 前項に規定する規程による**個人情報**の開示の請求、訂正の請求又は利用停止の請求に対する指定管理者の決定に不服がある者は、市長に対し、審査請求をすることができる。
- 3 前項の審査請求があった場合においては、第38条の規定を準用する。
(平17条例2・追加)

(委任)

第53条 この条例の施行について必要な事項は、実施機関が定める。

第7章 罰則

第54条 実施機関の職員若しくは職員であった者又は第6条第2項の受託業務に従事している者若しくは従事していた者が、正当な理由がないのに、個人の秘密に属する事項が記録された第2条第5項第1号に係る**個人情報**ファイル(その全部又は一部を複製し、又は加工したものを含む。)を提供したときは、2年以下の懲役又は1,000,000円以下の罰金に処する。

第54条の2 第6条第2項の公の施設の管理の業務に従事している者又は従事していた者が、正当な理由がないのに、当該業務に関する個人の秘密に属する事項が記録された第2条第5項第1号に係る**個人情報**ファイルに相当するものを提供したときは、2年以下の懲役又は1,000,000円以下の罰金に処する。

(平17条例2・追加)

第55条 前2条に規定する者が、その業務に関して知り得た保有**個人情報**を自己若しくは第三者の不正な利益を図る目的で提供し、又は盗用したときは、1年以下の懲役又は500,000円以下の罰金に処する。

(平17条例2・一部改正)

第56条 実施機関の職員がその職権を濫用して、専らその職務の用以外の用に供する目的で個人の秘密に属する事項が記録された文書、図画又は電磁的記録を収集したときは、1年以下の懲役又は500,000円以下の罰金に処する。

第57条 偽りその他不正の手段により、開示決定に基づく保有**個人情報**の開示を受けた者は、50,000円以下の過料に処する。

付 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成17年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の水戸市**個人情報**保護条例の規定により**個人情報**の開覧、写しの交付、訂正、削除又は目的外利用若しくは外部提供の中止の請求がなされているものに係る手続、処分その他の行為については、なお従前の例による。

付 則(平成17年3月28日条例第2号)抄

(施行期日)

- 1 この条例は、平成17年4月1日から施行する。

付 則(平成19年3月28日条例第15号)抄

(施行期日)

- 1 この条例は、平成19年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 3 第2条の規定による改正後の水戸市**個人情報**保護条例の規定は、施行日以後にされた開示請求、訂正請求及び利用停止請求については適用し、同日前にされた開示請求、訂正請求及び利用停止請求については、なお従前の例による。

付 則(平成19年9月27日条例第40号)

この条例は、平成19年10月1日から施行する。

付 則(平成25年3月27日条例第14号)

この条例は、平成25年4月1日から施行する。